

深海ザメ（主としてアイザメ）漁場調査

成 田 得 位
久 貝 一 成

趣 旨

深海に棲息する未利用サメ資源の漁場を開発し沿岸漁業の振興を図らんとするものである。

調査船 くらしお 21.44 吨 100 馬力

調査期間 第Ⅰ次 1967年2月22日～2月28日（7日） 第

第Ⅱ次 1967年6月27日～6月30日（4日）

調査海域 第Ⅰ次 大浦湾沿岸から久高島沿岸

第Ⅱ次 久米島東方沿岸から渡嘉敷島北方沿岸

使用漁具及び調査の方法

漁場では投錨して操業し漁具は立縄式、天秤式漁法を採用した。

経過概要

第Ⅰ次航海は戦前深海ザメの漁獲経験者である津堅島出身の松根真佐。松根正助氏の御両人を乗船せしめ当時釣獲した漁場に案内してもらったがその日は霧雨で視界が悪くそのため古老達が漁場位置決定する肝腎な山あてが見当もつかないとの事で目的とする漁場に到達せず魚群探知機で測深して水深判断のうえ操業したが、ツノザメ1尾、オオヒメ2尾、ハマダイ2尾の漁獲におわった。第Ⅱ次航海は久米島東部沿岸から調査を始めたが全海域ではサメ類の漁獲は1尾もみながった。渡嘉敷島北部沿岸では水深200m等深線から外側420mまでの範囲を調査しアイザメ1尾、ツノザメ、ツマリツノザメ10尾外2尾の漁獲を得た。

調査行程

日時	投縄揚縄	漁場位置	海象状況	水深	水温(表面)	潮流	底質	投縄数	餌料	漁獲物	備考
2月24日		26°-28'N 128°-06'E 大浦湾沿岸	気温 19.5℃ くもり 風向NW 風力3 気圧1022 気温 21℃	135~ 320m	21.0℃		泥	釣数 3 { 6	サンマ	なし	第1次航海
" 25 "	13:55 14:55	津堅島南東沿岸	風向NW, 風力2 気温 18℃	420 ^m	20.1℃		砂	釣数 4 { 8	"	ツノザメ 1尾	"
" 26 "		26°-23.8'N 128°-04.8'E 大浦湾沿岸	風向NW, 風力2 気温 18℃	270~ 450m	20.5℃		泥 砂	"	"	オオヒメ 2尾 ハマダイ 2	"
" 27 "		久高島南沿岸	気温 15℃ 気圧 1025	200m	20.8℃		砂	釣数 6 { 12	"	なし	"
6月27日	18:10 20:35	真泊南約1.5哩 奥武島より東 約0.7哩	気温 29.2℃ 天候 B 気圧 1013.5mb 風向SE, 2	370m	26.6℃	230°(M, B) 約0.8kt	S. co	釣数 2 { 4	サンマ イカ	なし	第II次航海
" 28 "	04:25 04:45	"		410m				釣数 1 { 2	サンマ		餌なし
"	06:45 07:10							釣数 2 { 7			釣針1本切らす 敵
"	10:10 11:25	赤森崎北西 約2.5哩	気温 28.8℃ 天候 B 気圧 1013mb SEの風 2~3	200~ 250m	28.5℃	SE 約1kt	R, sf	釣数 5 { 21	サンマ イカ	スズカサミ 1尾	餌付とんどあり
"	13:40 14:12	" 約2.8哩	気温 29.0℃ 天候 SE. 3 5時02	300~ 360m	28.4℃	"	"	"	サンマ	なし	

6月28日	18:50 21:30	座間味赤瀬崎 約2.5哩	気温28.9℃ 天B 気圧1011 S.W.3 うねり2	270~ 350m	26.8℃	S 約0.5ht	S.M	2 3	サンマ	ツノザメ レンコダイ	1尾 1"	餌なし
" 29"	05:25 06:10	座間味中央 N.E 黒島より 3.00 (W.B)	気温27.6℃ S.W.3 気圧1009 うねり3 天 B	330~ 380m	27.1℃	S. 1 ht	"	4 13	サンマ イカ	ハマダイ ツノザメ	1尾 1" 1"	釣針1本切らす 餌なし
" "	06:12 07:00	"	"	"	"	"	"	4 15	"	ハマダイ タ タチウオ	1尾 2" 1"	ほとんど餌なし
" "	07:10 08:00	"	"	"	"	"	"	"	"	タ イ	1尾	"
" "	10:40 11:25	黒島より325° 約33哩の地点	気温28.5℃ 天B 気圧1011 うねり3 S.W.の風 2~3	280~ 350m	"	S. 1.2ht	S.M	3 9	サンマ	ツノザメ	1尾	"
" "	13:50 14:35	"	"	"	"	SW 1.5ht	"	3 釣数	サンマ イカ	アイザメ ツノザメ オホカマス	1尾 1" 1"	潮流急変
" "	17:30 18:30	黒島より335° 約3哩	気温30.4℃ 天B 気圧1011 うねり3 S.W. 2	320~ 360m	27.6℃	西S風 0.8 ht	"	4 15	"	ツノザメ ツノザメ レンコダイ	1尾 1" 1"	外はほとんど餌なし
" "	18:52 19:10	"	"	350~ 420m	27.5℃	"	"	2 6	"	ヒヨウザメ レンコダイ	1尾 1"	"
" "	19:11 19:37	"	"	"	"	"	"	4 15	"	ツノザメ ツマリツノザメ1" カコガキス	2尾 2"	"
" "	19:40 20:20	"	"	"	"	"	"	"	"	ツノザメ ツマリツノザメ1"	1尾 1"	餌ほとんどあり
" "	20:35 21:15	"	気温28℃ 天B 気圧1012 うねり3 Sの風 2	420m	27.3℃	"	"	"	"	レンコダイ ツマリツノザメ1"	1尾 1"	餌ほとんどなし
" 30"	05:25 07:30	"	気温27.3℃ 天B 気圧1013 Sの風 2~3	380m	27.2℃	S. 0.5ht	"	1 釣数	サンマ	ツノザメ	1尾	"

所 感

- ① ツノザメ科のサメ類は200 m等深線以深の底質が砂及び泥又は砂泥質のところには棲息することとは明らかである。魚市場にあがる一本釣で獲れるツノザメは普通一本釣漁場が曾根など底質が岩礁の処であるのでツノザメに関してはその棲息範囲が広いと思う。
- ② 魚体組成から特にメスが長さのわりに体重が小さく、肝臓比重が小さいのは丁度分娩後でやせている原因ではないかと思うが海況的にも相違があるので今後の継続した調査結果を必要とする。
(文献では普通10～12月に懐妊し、2～4月に分娩する)
- ③ ツノザメ科のサメの棲息とカゴカマスの棲息に関連があるのではないか。これは同じ底棲性の魚類ではあるがサメの釣獲される場所でカゴカマスの釣獲が見られ又サメの胃内容物にカゴカマスの骨片が残っている点から二者の間に食餌的か生態的に相関係があるのではないか
- ④ 漁具については現在立縄式と天秤式の両方を使い別添図のような手動式巻揚機で投縄、揚縄を行っているが水深が深いので揚縄の際相当な労働量を必要とし又作業能率も悪いので巻揚機の改良或は機械化を考える必要がある。
- ⑤ 漁法として現在の立縄式、天秤式の垂直的小範囲の漁具漁法より延縄式で調査範囲を平面的に広くするよう今後は延縄式を推進して行く事が望ましい。

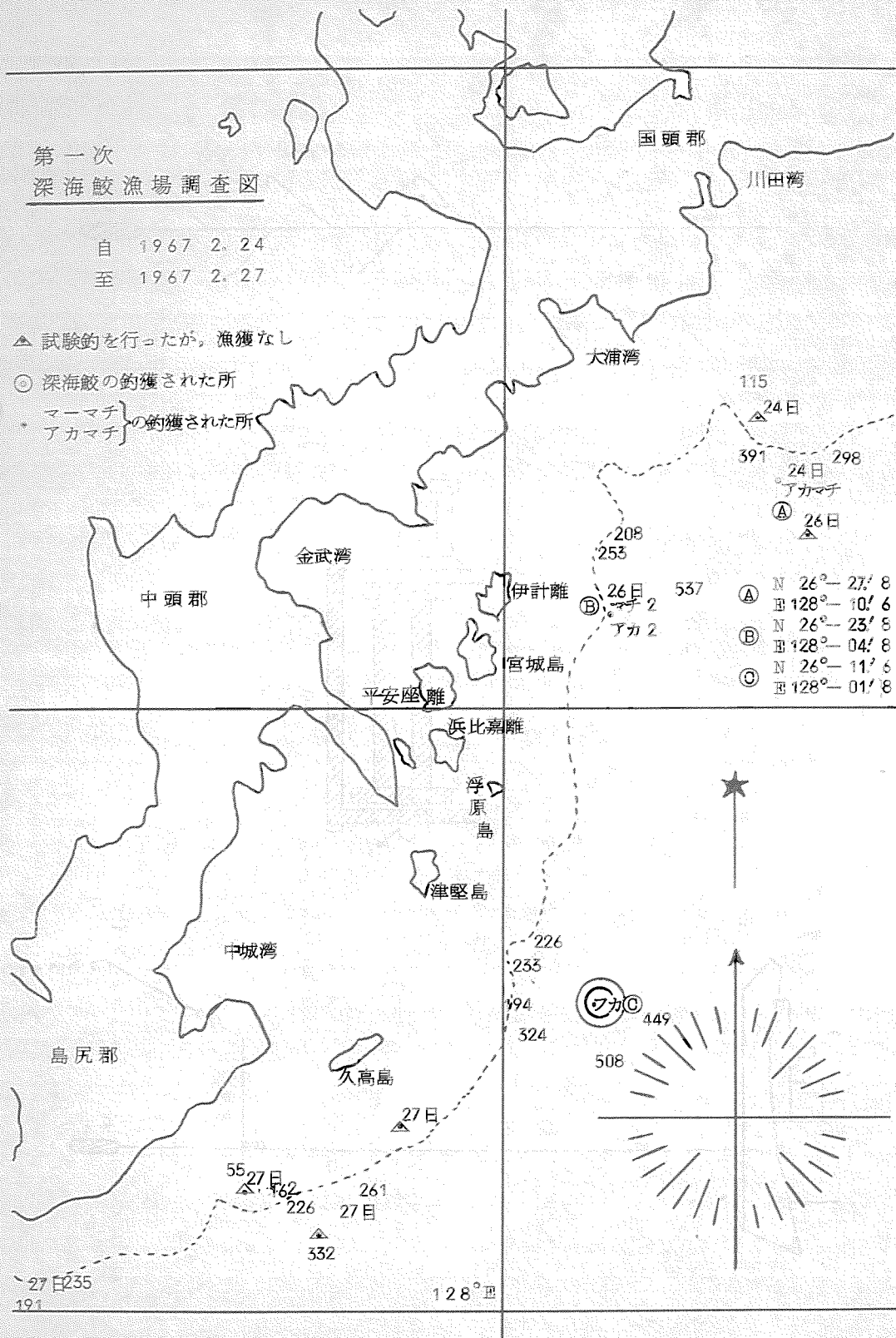
第一次
深海鮫漁場調査図

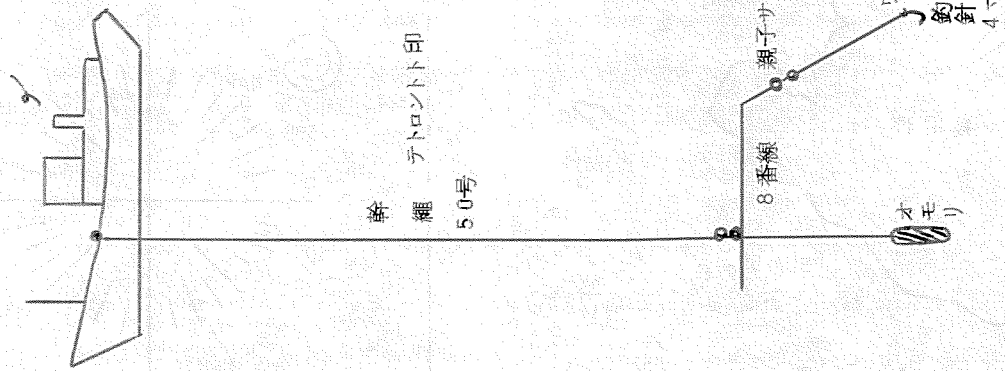
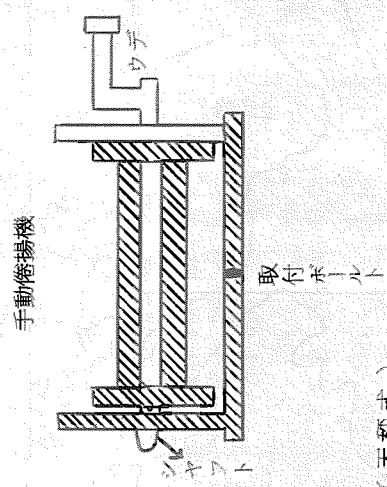
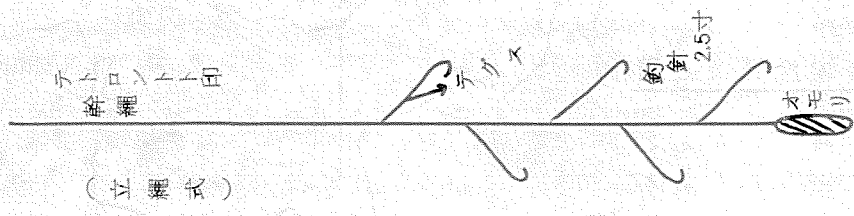
自 1967 2. 24
至 1967 2. 27

▲ 試験釣を行ったが、漁獲なし

◎ 深海鮫の釣獲された所

マーマチ } の釣獲された所
アカマチ }





第二次

凡例 操業位置 ①~④
 点線は 200m 等深線

